海外安全対策情報（令和６年（2024年）１～３月期）

１　治安情勢･一般犯罪の傾向

(1)　ＮＳＷ州

過去５年の発生状況の統計においては、主要１３罪種のうち継続して増加傾向にあったＤＶ及び性犯罪は引き続き増加傾向にあるところ、特筆すべき点として、今次の統計において暴行（ＤＶ除く）及び窃盗（自動車盗）が増加傾向に転じた。これはコロナ禍以前の水準と比べても上昇していることを意味しており、過去２０年にわたって維持してきた減少傾向に反転の兆しが認められることを示している。

他方、コロナ禍の水準との比較となる短期２年での統計では、減少傾向を示す罪種はなく安定または上昇傾向を示している。

２　地域的特徴（州内１４地域）

パーセンテージは、２０２３年４月から２０２４年３月までの１２か月と、前年同期との増減率である。

（１）シドニー

暴行・傷害（ＤＶ関連）：＋6.0％
暴行・傷害（ＤＶ以外）：＋9.8％
建造物侵入：＋24.7％
窃盗（自動車盗）：＋20.0％
窃盗（店舗対象）：＋15.7％
窃盗（その他）：＋12.5％

（２）首都周辺地域

暴行・傷害（ＤＶ関連）：＋15.7％
住居侵入：＋29.1％

（３）中西部

窃盗（店舗対象）：＋24.6％

（４）コフス・ハーバー～グラフトン

暴行・傷害（ＤＶ関連）：＋31.1％

（５）極西部及びオラーナ

暴行・傷害（ＤＶ関連）：＋16.7％
暴行・傷害（ＤＶ以外）：＋16.3％
窃盗（店舗対象）：＋37.7％
器物損壊：－15.4％

（６）ハンター・バレー（ニュー・キャッスルを除く）

暴行・傷害（ＤＶ関連）：＋20.1％

住居侵入：＋20.5%
窃盗（店舗対象）：＋22.8%
（７）イラワラ
暴行・傷害（ＤＶ以外）：＋7.9%
窃盗（店舗対象）：＋28.8%
（８）中北部沿岸部
暴行・傷害（ＤＶ以外）：＋13.9%
窃盗（自動車盗）：＋29.7%
（９）マレー
窃盗（店舗対象）：＋27.0%
(10) ニュー・イングランド及び北西部
窃盗（店舗対象）：＋24.1%
(11) ニュー・キャッスル及びレイク・マッコーリー
強姦：＋17.4%
窃盗（店舗対象）：＋49.5%
(12) リッチモンド～ツイード
強姦：＋27.8%
窃盗（店舗対象）：＋130.1%
(13) リベリーナ
特記事項なし
(14) サザン・ハイランズ及びショールヘイブン
住居侵入：＋22.7%
建造物侵入：＋39.2%
窃盗（自動車盗）：＋45.8%
窃盗（車上ねらい）：＋59.4%
窃盗（店舗対象）：＋106.3%

(2)　北部準州

北部準州第２の都市であるアリススプリングスでは2022年の飲酒規制解除後は一時、治安状況が急速に悪化した。その後の暫定措置（飲酒規制の再導入）により一旦は安定傾向を示したものの、最近では主要罪種において犯罪発生率は緩やかな悪化傾向にある。州都であるダーウィンでは主要罪種のほぼ全てで増加傾向を示しており、州全体で見てもコロナ禍の水準を大きく上回る発生件数が記録されている。

３　邦人被害

引き続き暴力的なデモの発生はみられないものの、２０２３年１０月上旬よりイスラエルとハマスの間での武力衝突を受けて大規模デモの開催が増

加傾向にあるほか、無許可デモによる逮捕者も発生している。デモを認知した際には、速やかにその場を離れる等の注意が必要である。

また一般犯罪では、賃貸契約における保証金詐欺について複数の報告、また、銀行口座からの不正引き出し等の報告等が寄せられており、引き続き詐欺被害に対する警戒が必要である。

４　テロ・爆弾事件発生状況

最近ではシドニーでのテロの発生はないが、一昨年１２月にはＩＳ（イスラム国）の影響を受けたシドニー郊外在住の男がテロ関連の罪で逮捕されるなど、当地におけるテロの潜在的脅威は存在している。また本年４月中はイスラム教徒が日の出から日没まで断食を行うラマダン月に当たるところ、毎年、このラマダン月前後に世界中でテロが多発しており、特に人の集まる場所におけるテロの可能性について警戒を要する。

５　誘拐・脅迫事件発生状況

特段注意を要する事件・情報は認知していない。

６　日本企業の安全に関わる諸問題

特段注意を要する動向は認知していないものの、令和２年（2020年）中、シドニー市内において、我が国に対する抗議デモが２件（慰安婦問題、反イルカ漁）行われており、これら団体の動向等について引き続き注意を要する。

※統計は、ＮＳＷ州犯罪統計局及び北部準州警察の公表に基づく（統計期間：2023年1月から2023年12月までの１年間（北部準州は2023年2月から2024年1月までの１年間）と前年同期との増減率）。